



立山町立 釜ヶ淵小学校

校長：松下美愉紀先生

指導教諭：永井 淳子先生
安宅 泰子先生

発表児童：4年（17名）



本校は、北アルプス「立山」の麓に位置し古くから登拝を目指して全国から集まった人々の足取が、今も道標や地蔵として残っている水と緑が豊かな地域にある。

児童数は94人、「生き生きと活動する心豊かな子供の育成」を学校教育目標に掲げ、本年度で創立110年を迎える。小規模であるが、敷地内には黒松やヒバ、桜などの高木が茂り毎年巣箱掛けを行うなど愛鳥モデル校として50年以上の歴史がある。



発表テーマ

かまがふちの水

総合的な学習の時間のテーマは「かまがふちの水」です。釜ヶ淵校区の西側を流れる常願川、東側を流れる栃津川、農業用水、水工場。

釜ヶ淵の水巡りをする中で、水質や水の中の生き物、昔の様子、生活とのかかわりなどの視点から一人一人が課題をもち、学習を進めてきました。今までに調べてきたことで分かったことや考えたことを4グループに分かれて発表します。

永井 淳子 先生より

「かまがふちの水」を身近に感じられるようになった子供たちに、さらなる学びを

「地域の自然や人に進んでかかわる子供に」という願いで「かまがふちの水」の学習に取り組みました。子供たちは、体験を通して「かまがふちの水」のいろいろな姿にふれることができました。また、行く先々で温かく迎えてくださる地域の方から、生物のことや昔の様子などを教えていただきました。今後も素朴な疑問を大切にしながら、自然と自分たちとのつながりを考え、学び続けてほしいと思います。

安宅 泰子 先生より

活動を通して

今回水にすむ生き物を調べる機会があり、子供たちは宝物を見つけたように喜んで調査をしました。昔に比べ種類が少ないことが分かりました。一見美しく整えられた川ですが、生き物の視点で見るとどうなのでしょう。いつまでも多種の生き物が共生できる自然環境であってほしいです。そのために一人一人ができることを見つけ、実践してもらいたいと思いました。



▲常願寺川の水生物調査に参加しました。



▲大場の大転石！安政の大地震で流されてきたそうです。



▲「用水の取り入れ口は、ここだよ。」地域の人に教えてもらいました。



▲柗津川の流の速さや水温を調べました。



考えたこと！感じたこと！

水みらいプロジェクト2006に参加して

水上 雅也(4年生)

家の近くの用水には、昔いろいろな種類の水生生物がいたそうです。ひかくのきれいな水なのに、なぜ水生生物があまり見つからなくなったのでしょうか。

第一部の田中先生のお話では、田んぼにも水生生物がいることが分かり、きょう味をもちました。田んぼの生物についても調べてみたいになりました。

酒井 彩(4年生)

発表を聞いて、川がよごれている地いきの小学校では、川を守るために自分たちにできることはないか話し合い、実行していることを知りました。かがまがふちの川は、今きれいです。でも、年月がたつとよごれた川になるかもしれません。いつまでもきれいな川であるように、わたしたちも話し合ってみようと思いました。



▲釜ヶ淵の水は、本当に自慢かな。みんなで話し合いました。

学習テーマの設定

水はいろいろだ

お母さんのようにやさしい水、友だちのようにゆかいな水、怪物のように恐ろしい水…。「水」にも、いろいろな水があります。



自分たちでたしかめよう！わたしたちの学校がある「かがまがふちの水」は、どんな水なのか？自分たちの目でたしかめて、調べてみたいになりました。

学習の展開

まず4カ所に注目

釜ヶ淵の水の中でも、常願寺川、柗津(とちづ)川、校区を流れる用水、水工場の4カ所に注目しました。自分が調べたい所をえらび、4つのグループに分かれて調べました。



水の強い力を実感

常願寺川で上流から流れてきた巨大な石や流木を見て、「日本一のあばれ川」と言われていることになっとく。水生生物を調べたところ、ひかくのきれいな水にす生き物がいました。

川をつなぎ田畑をうるおす用水は常願寺川から水を取り入れ、田畑をうるおし、柗津川へ流れます。2つの川は用水でつながっていた！水はきれいです、むかしはもっと多くの種類の生き物がいたそうです。



水のめぐみを都会へ

釜ヶ淵の水工場の水は東京や大阪などへ出荷されます。立山の雪どけ水や田んぼの水などが、たくさんの地層を通ってできたきれいな地下水を地下150mからくみ上げています。

きれいな水はおいしい水
常願寺川の水はきれいで、水道水にすると入れる薬の量は、都会より少ないそうです。水がきれいなことがおいしい水につながる！水の学習はまだ途中…。これからも進めていきます。

